

(13) 非結球あぶらな科葉菜類（食べて菜、たかな）

※非結球あぶらな科葉菜類に含まれるチンゲンサイ、のざわな、こまつな、みずな等を除く

病害虫名	防除法	防除のポイント	薬 剤 防 除		
			防除時期	RACコード	薬 剤
1 根こぶ病 <i>Plasmodiophora brassicae</i>		1. 苗床は無病な土を使用する。 2. 前年発生したところでは連作を避け、アブラナ科以外の作物との3年以上の輪作をする。 3. 石灰窒素を施用し、土壌の酸度を6以上に矯正する。 4. 圃場の排水を良好にし、低湿地や排水不良地での作付けを避ける。 5. 発病株は根部を含めて、完全に除去する。	播種または定植前	21 21 29 36	オ ラ ク ル 顆 粒 水 和 剤 オ ラ ク ル 粉 剤 フ ロ ン サ イ ド 粉 剤 ネ ビ ジ ン 粉 剤
			播 種 前	36	ネ ビ リ ュ ウ
2 黒腐病 <i>Xanthomonas campestris</i> pv. <i>campestris</i>		1. 連作すると多発するので、アブラナ科以外の作物と最低2年輪作する。 2. 発病株を除去し、収穫後の残茎葉は集めて土中に埋める。 3. 排水を良好にする。 4. 黒腐病菌は害虫の加害痕など、傷口から感染するので、害虫の防除を行う。	初発から3～4回	M1	コ サ イ ド 3 0 0 0
3 軟腐病 <i>Pectobacterium carotovorum</i>		1. 抵抗性品種を用いる。 2. 4～5年輪作にし、イネ科、マメ科の作物を作る。 3. 早播きのものは防虫ネットで被覆する。 4. 軟腐病菌は害虫の加害痕など、傷口から感染するので、害虫の防除を行う。	本葉9～10枚のころから2～3回	M1	コ サ イ ド 3 0 0 0
4 白さび病 <i>Albugo macrospora</i>		1. 排水を良好にし、過湿を避ける。 2. 密植したり、過繁茂にならないようにする。 3. 窒素過多にならないようにする。 4. 被害茎葉を集めて土中に埋める。	発 病 初 期	11 21 21	ア ミ ス タ ー 2 0 フ ロ ア ブ ル ラ ン マ ン フ ロ ア ブ ル ラ イ メ イ フ ロ ア ブ ル
5 炭疽病		1. ポリマルチや敷わらを行う。 2. 排水をよくする。 3. 窒素肥料の多用を避ける。 4. 被害葉は除去し、処分する。 <b>〈薬剤使用の特記事項〉</b> 1. ベンレート水和剤は白斑病にも登録がある。	発 病 初 期	1 11	ベ ン レ ー ト 水 和 剤 ス ク レ ア フ ロ ア ブ ル
6 アブラムシ類		1. 周辺雑草を防除する。 2. 育苗床では防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。 3. 周囲にシルバーテープをはる。 4. シルバーマルチをする。 <b>〈薬剤使用の特記事項〉</b> ●播種時 1. モスピラン粒剤、アルバリン粒剤、スタークル粒剤を処理した場合は、つまみ菜、間引き菜を利用しない。	播 種 時	4A 4A 4A	モ ス ビ ラ ン 粒 剤 ア ル バ リ ン 粒 剤 ス タ ー ク ル 粒 剤
			発 生 初 期	1B 3A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4C 28 29	オ ル ト ラ ン 水 和 剤 ア グ ロ ス リ ン 乳 剤 モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤 ア ク タ ラ 顆 粒 水 溶 剤 ダ ン ト ツ 水 溶 剤 ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤 ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤 ト ラ ン ス フ ォ ー ム フ ロ ア ブ ル ベ リ マ ー ク S C ウ ラ ラ D F
7 アザミウマ類		1. 周辺雑草を防除する。 2. 飛び込み軽減のため、防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。	発 生 初 期	5 6	ス ピ ノ エ ー ス 顆 粒 水 和 剤 ア フ ェ ー ム 乳 剤
8 ハスモンヨトウ		1. 育苗床では防虫ネット（4mm目合以下）で被覆する。 2. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 3. 防虫ネット（4mm目合以下）等でトンネル被覆すれば、飛来、産卵を防止できる。	若 齢 幼 虫 期	6 6	ア フ ェ ー ム 乳 剤 ア ニ キ 乳 剤
9 ヨトウムシ		1. 育苗床では防虫ネット（4mm目合以下）で被覆する。 2. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 3. 防虫ネット（4mm目合以下）等でトンネル被覆すれば、飛来、産卵を防止できる。	若 齢 幼 虫 期	5 6 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A	ス ピ ノ エ ー ス 顆 粒 水 和 剤 ア フ ェ ー ム 乳 剤 ト ア ロ ー 水 和 剤 C T バ シ レ ッ ク ス 水 和 剤 ゼ ン タ ー リ 顆 粒 水 和 剤 エ ス マ ル ク D F フ ロ ー パ ッ ク D F チ ュ ー ン ア ッ プ 顆 粒 水 和 剤 サ ブ リ ナ フ ロ ア ブ ル

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

非結球あぶらな科葉菜類（食べて菜、たかな）

病害虫名	防除法	防除のポイント	薬 剤 防 除		
			防除時期	RACコード	薬 剤
10 アオムシ		1. 育苗床では防虫ネット（4mm目合以下）で被覆する。 2. 幼虫は見つけしだい捕殺する。	発 生 初 期	5 6 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 15 15 30 30	スピノエース顆粒水和剤 アフアーム乳剤 トアローフロアブルCT トアローフロアブルCT バシレックス水和剤 ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 エスマルクDF フローバックDF チェーンアップ顆粒水和剤 サブリーナフロアブル マツチ乳剤 カスケード乳剤 グレーシア乳剤 プロフレアSC
11 コナガ		1. 紫外線反射資材を用いると、成虫の飛来を軽減することができる。 2. 育苗床では防虫ネット（2mm目合以下）で被覆する。  <b>〈薬剤使用の特記事項〉</b> ●播種時 1. モスピラン粒剤を処理した場合は、つまみ菜、間引き菜を利用しない。	播 種 時 発 生 初 期	4A 5 5 6 6 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 13 15 15 22B 28 28 28 30 30 UN	モスピラン粒剤 スピノエース顆粒水和剤 デИАーナSC アフアーム乳剤 アニキ乳剤 トアローフロアブルCT トアローフロアブルCT バシレックス水和剤 ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 エスマルクDF フローバックDF チェーンアップ顆粒水和剤 サブリーナフロアブル コテツフロアブル マツチ乳剤 カスケード乳剤 アクセルフロアブル プレバソフロアブル5 フェニックス顆粒水和剤 ベリマールSC グレーシア乳剤 プロフレアSC プレオフロアブル
12 ハイマダラノメイガ		1. 秋播栽培では早播きしない。 2. 育苗床では防虫ネット（2mm目合以下）で被覆する。  <b>〈薬剤使用の特記事項〉</b> 1. 8～9月の高温、乾燥時に被害が多い。	発 生 初 期	5 6	スピノエース顆粒水和剤 アフアーム乳剤
13 キスジノミハムシ		1. 育苗床では防虫ネット（0.8mm目合以下）で被覆する。 2. アブラナ科野菜の連作を避ける。 3. 湛水処理によって、土壌中の幼虫や蛹を死滅させる。  <b>〈薬剤使用の特記事項〉</b> 1. フォース粒剤、アルバリン粒剤、スタークル粒剤を処理した場合は、つまみ菜、間引き菜を利用しない。	播 種 前 播 種 時 発 生 初 期	3A 4A 4A 4A 4A 4A 6 22B 30 30	フォース粒剤 アルバリン粒剤 スタークル粒剤 モスピラン顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 アニキ乳剤 アクセルフロアブル プロフレアSC
14 ハモグリバエ類		1. 周辺雑草を防除する。 2. 飛び込み軽減のため防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。  <b>〈薬剤使用の特記事項〉</b> 1. カスケード乳剤はマメハモグリバエに登録がある。	発 生 初 期	5 6 6 15	スピノエース顆粒水和剤 アフアーム乳剤 アニキ乳剤 カスケード乳剤
15 コナジラミ類		1. 育苗床では防虫ネット（1mm目合以下）で被覆し、飛来を軽減する。			
16 ケラ		1. 圃場を水田にするなど、湛水処理をする。	播 種 時	1B	ダイアジノン粒剤 5
17 ネキリムシ類		1. 作付け前の圃場の除草処理を徹底する。 2. 育苗床は雑草の繁茂していないところに設ける。 3. 圃場を水田にするなど、湛水処理をする。	播種時または定植時 播 種 前	1B 3A	ダイアジノン粒剤 5 フォース粒剤
18 ナメクジ類		1. 除草や残さ処理などにより、多湿で有機物の多い圃場環境を避ける。	発 生 初 期	—	ナメクリーン 3

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する